

ミニシンポジウム 「大洋デパート火災資料の人権論的意義」

【日時】2025年11月26日(水)16:20~17:50

【会場】熊本学園大学図書館AVホール（地下1階）

プログラム

- ① 主催者あいさつ
- ② 報告1：アーカイブズと人権論的意義
森口千弘（熊本学園大学准教授）
- ③ 報告2：資料保存の意義（大洋デパート火災、免田事件など）
高峰武（熊本学園大学招聘教授）
- ④ 質疑応答

報告者紹介

高峰武（熊本学園大学招聘教授）

1952年熊本県生まれ。早稲田大学第一文学部仏文科卒。1976年、熊本日日新聞社入社。社会部長、編集局長、論説委員長、論説主幹。2020年から熊本学園大学特命教授、2025年から同招聘教授。

著書・共著：『ルポ 精神医療』（日本評論社）、『完全版 検証・免田事件』（現代人文社）、『検証ハンセン病史』（河出書房新社）、『水俣病を知っていますか』（岩波ブックレット）、『熊本地震2016の記録』、『8のテーマで読む水俣病』（弦書房）、「生き直す：免田栄という軌跡」（弦書房）、「検証・免田事件[資料集]」（現代人分社）

森口千弘（熊本学園大学社会福祉学部准教授）

1990年東京都生まれ。早稲田大学法学部、同院法学研究科修士課程、同博士課程修了。博士（法学）。熊本学園大学講師を経て2020年より現職。

主著：『内心の自由』（日本評論社、2023）「社会の分断がもたらす人権の『武器化』」新井誠・友次晋介・横大道聰編『〈分断〉と憲法』（弘文堂、2022）、「信教の自由と反差別法」桧垣伸次・奈須祐治編『ヘイトスピーチ規制の最前線と法理の考察』（法律文化社、2021）、「『教師の教育権』という戦略」遠藤美奈ほか編『人権と社会的排除』（成文堂、2021）